

全国集会を成功させよう!…笑顔あふれる学校めざして

＜日時＞ 2011年3月19日（土）

第1章 教育をとりまく情勢

(1) 迷走する政治

2009年、政権交代したものの、その後できた民主党政権は迷走を続けています。国民のための政治をおこなうことができず、現時点で次年度の予算すら決めることができません。

教育の分野でも、世論の声を受けて、少人数学級実現の方向に舵をとったものの教育をよくしていく方向を指し示すことはできないままです。

(2) ますます苦しめられている子どもたち・教職員

精神疾患で病気休職した公立小中高校教員は5400人（2008年度）、自死者は144人（2009年度）と、深刻な心の病をかかえる教員は増える一方です。また、ユニセフの調査（2007年）によると「自分を孤独だと感じている15歳児」の割合は、OECD平均7%と比べ、日本は29.8%と異常なほど突出しています。

貧困で歪んだ政治・教育行政のもと、子どもたちも教職員も苦しんでいます。

(3) 公教育破壊に抗して

今年2月に愛知県知事に大村氏が選出、名古屋市長に河村氏が再選されました。公務員を敵視し、マスコミを利用して「人気」を集めてきた二人による行政は、教育予算大幅減・公教育の危機をも呼ぶ可能性があります。

(4) 非常勤講師急増など臨時教員をめぐる問題の矛盾化

臨時教員は雇用が不安定で、常勤でも給与は正規教職員と大きな差があります。また、劣悪な労働条件が強いられている非常勤講師は、この1年間も多数配置され雇用形態や自治体によって差がつけられるなど、大きな問題があります。

(5) 教育運動の前進を

今の情勢は、学校を本当に子どもたちが安心して学んでいける場にしていくことを求めています。わたしたちは、これまでも多くの民主団体や県民と手をつなぎ、子どもたちの教育条件と臨時教員の労働条件・任用・採用にかかわる諸課題を改善

させていただきました。

わたしたちの前にある様々な課題を、「教育に臨時はない」の世論を広げつつ、運動によって打開していきたいと思います。

第2章 子どもたちの豊かな教育を保障する教育条件の整備を.....

(1) 30人学級の実現と教職員定数増をめざして

愛知県や各市町村独自で少人数学級を実現するための取り組みを、各地域の教職員・父母県民とともに進めます。また、少人数学級に必要な教職員は非常勤でなく身分の安定した教職員が配置されるよう、教職員定数増の取り組みを合わせて進めます。

(2) 補充教職員の適正な配置と補充教職員制度の確立を

正規教員の育児休業が3年まで認められるようになった一方で、その補充教員の配置は1年ごとの「ぶつ切れ」で任用の1日空白があり、「別の臨時教員」に入れ替わることがあります。また、補充が配置されるまでに日数がかかったり、非常勤で配置されたりするような場合もあります。子どもたちの教育に「空白」をつくらず、継続的な教育活動を行うため、速やかに適正な補充教職員の配置ができるような「補充教職員制度」の確立を求めます。

(3) 臨時教員の経験が生かされる公正で民主的な教員採用制度を

05年夏実施の愛知県教員採用試験より、臨時教員の経験評価が一定なされるようになるなど、運動の前進により様々な制度改善がなされてきました。その中で、求める会の活動にかかわってきた方を含む経験と実績ある多くの臨時教員が、ここ数年の間に正規採用をかちとりました。

しかし、様々な課題が残っています。愛知県では、非常勤講師が「特別選考対象外」となっていることなど、多くの問題があります。また、名古屋市では、豊かな経験をもつ50才以上の臨時教員には、相変わらず受験資格すら与えられていないうえ、臨時教員の経験を評価して採用する制度も、愛知県と比べ不十分です。

今後も、公正で民主的な教員採用選考を求め、臨時教員の実績が正当に評価されるような制度に改めていく運動を進めます。

(4) 臨時教職員の濫用をやめさせ、待遇改善と雇用保障を

現在、教育現場には様々な形で多くの臨時教員が配置されていますが、その多くは劣悪な待遇のもと、不安定な立場に置かれています。安心して教育活動に専念で

き、子どもの教育に責任が負えるように、待遇改善・雇用保障のための取り組みを進めます。

とりわけ、名古屋における同一校・任用継続（含：非常勤）の要求実現と06年4月に始まった臨時教員の給与大幅減の問題を改善させていく取り組みを、重視して取り組んでいきます。

(5) 春と秋・冬の講座のより充実めざして

ここ数年、教員採用学習交流講座の参加者が飛躍的に増え、内容も豊かなものになっています。この講座の特徴は、「ともにすてきな教師めざして、高め合っていく」ことが多くの参加者の共通の思いになっている点です。この講座をとおして、わたしたちの運動にかかわる仲間が増えています。今年度もより多くの参加者とともに豊かな講座をつくり、ともに運動に取り組む仲間を増やしていきます。

(6) 署名運動を成功させ、要求実現を

この春から、愛高教・名高教とともに「臨時教員制度を改善し、ゆきとどいた教育をすすめる請願署名」に取り組もうと準備を進めています。労働条件・採用問題・教育条件についての項目をかがげ、多くの皆さんの賛同を得て、愛知県・名古屋市に請願していきます。

(7) その他、次のような運動を進めていきます

- * 経験と実績ある臨時教員の採用を求める集会
- * 各教育委員会への要請行動と交渉（任用・採用・労働条件）
- * 生活研修基金の給付
- * 県民版「教員採用制度検討委員会」（仮称）の設立に向けた取り組み
- * 世論化のための宣伝・学習

第3章 全国集会の成功を

(1) 今年の全国集会（愛知）の意義

1999年、愛知県で全国集会を開催しました。全国の運動から学び、その後、採用制度を大きく改善させるなど大きな成果をかちとる契機となりました。

しかし、その後の「定数くずし」など国の教育政策の改悪があり、非常勤講師が急増するなど、私たちの運動の意義がますます大きくなっています。また、若い臨時教員をはじめ新たに私たちの進めている講座や運動に参加する人たちが増えています。

今後、さらに大きく運動を発展させていくためにも、今年8月10日～12日に行う全国集会を成功させていきたいと思います。

(2) 過去最高の参加者で、内容も豊かな集会を

昨年9月、県下の様々な教職員組合とともに集会実行委員会を結成しました。これまでの愛知の運動とこれからの展望を学び合う全国集会をつくりあげようと、若い仲間とともに集会準備を進めています。

過去最高の集会参加者をめざして、がんばっていきましょう。

第4章 求める会をつよく大きく.....

(1) 1500名の会員めざして

求める会は、臨時教員や子どもたち・父母・住民の願いを結びつける教育団体として、またその願いを実現するために行政への働きかけを進める組織として、その役割はますます重要になっています。今後、活動の一層の発展のためには、会員を増やすことが大きな課題になっています。

1500名の会員めざして、積極的に宣伝やよびかけの活動を進めます。ぜひ、会員の皆さんには、周りの人たちへの宣伝・よびかけなど、ご協力をよろしくお願いします。

(2) 「おおぞらへとべ」の充実

事務局では、ニュース「おおぞらへとべ」をとおして、臨時教員をとりまく状況や教育の課題や学校現場の様子をリアルにそして迅速に伝えるために、編集作業を重視して紙面作りに取り組んできました。今後も、編集スタッフを拡充・強化してより一層充実した内容と親しみやすい紙面作りに努力していきます。

(3) 代表委員会と事務局の充実・強化

求める会の活動を検討し、より豊かなものにしていくために、年1回の総会をつなく、年3回の代表委員会、月1回の事務局会議を行います。また、代表委員会や事務局体制の充実をはかり、より多くの人たちの知恵と協力によって、活動を進めていきます。

(4) 他団体との協力・共同を進めます